

2024年「日米豪印サイバー・チャレンジ」に関する共同声明

2024年10月21日

オーストラリア、インド、日本及び米国の日米豪印パートナーは、日米豪印上級サイバーグループのもとで、責任あるサイバーエコシステムの強化、パブリックリソースの促進及びサイバーセキュリティ意識の向上を目的とした共同キャンペーン「日米豪印サイバー・チャレンジ」の継続を発表した。本年のサイバー・チャレンジのテーマは、サイバーセキュリティ教育の促進と強力な人材の育成である。

2024年10月10日、米国はホワイトハウスで、オーストラリア、インド及び日本の政府関係者が参加した日米豪印サイバー・チャレンジのイベントを開催した。アン・ニューバーガー国家安全保障担当大統領次席補佐官（サイバー・新興技術担当）とシンディ・マーテン教育副長官は、サイバーセキュリティにおける若者の人材育成の重要性について議論し、連邦政府職員や民間企業への教育パイプラインを強調した。全米の学生や教育関係者が、著名なサイバーセキュリティ専門家による自身のキャリア形成の話聞くため参加した。このイベントでは、大統領サイバー教育者賞の受賞者や、大統領サイバー教育者賞パスウェイ及びサイバーパトリオット・プログラムに参加する学生を歓迎した。彼らは米国のサイバー人材の将来を担う存在である。

翌日、日本では、内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）がサイバーセキュリティ分野の第一線で活躍する3人の専門家を招き、サイバーセキュリティの仕事の重要性や直面している課題に焦点を当てた[ビデオメッセージ](#)を公表した。また、3人の専門家は、学生や若者がこの重要でやりがいのある分野を目指す動機付けとなるよう、自身の経験や、サイバーセキュリティのキャリアパスを選択したきっかけについて語った。

今月末、サム・モスティンオーストラリア連邦総督は、キャンベラ総督官邸で日米豪印サイバー・チャレンジのイベントを開催する。首都圏の女子高校生が、総督、サイバーセキュリティ・デジタルレジリエンス特使のアンドリュー・チャールトン下院議員、国家サイバーセキュリティ調整官のミッチェル・マックギネス中将及び日米豪印の代表者とともに、このイベントに参加する。このイベントに参加する学生は、サイバーキャリアの利点と機会について学び、自分自身や他人をサイバーリスクから守る最前線に立つことができるようなサイバースキルの伸ばし方について学ぶ。

また、10月にはインドのサイバー空間を保護することを目的に、インドの国家サイバーセキュリティ調整官が、サイバーセキュリティ啓発月間のアウトリーチ活動の一環として、学生コミュニティにサイバーセキュリティの重要性を強調する「サイバー・クリーン・キャ

ンペーン」というインドのサイバーハイジーン・キャンペーンに関するメッセージを発信する。著名なサイバーセキュリティ専門家が学生及び教職員を対象に啓発ワークショップを実施し、サイバー衛生習慣の採用を促すだけでなく、サイバーセキュリティをキャリアの選択肢として選ぶよう促す。

ウィルミントン宣言の共同声明で述べられているように、日米豪印はインド太平洋地域に現実の、前向きで持続的な影響をもたらす善を推進する力である。我々は、日米豪印サイバー・チャレンジの使命を支持し、世界の次世代のサイバーセキュリティ専門家を育成するための技術スキルの発展と教育を促進するインド太平洋地域及び世界各地の学生や教育関係者に感謝する。